

子どもたちのために奮闘する父親会員



南種子町立南種子中学校 PTA会長 古市 宣明

学校と地域の紹介

南種子中学校は、平成6年4月に、中平中、荃南中、西野中、島間中、平山中の5校が再編し、本町唯一の中学校として現在の地に建てられました。6万2千㎡余、東京ドーム1.3個分という広大な敷地に運動場、野球場、テニスコートがそれぞれ設置されています。

種子島宇宙センターから打上げられるロケットを学校から見ることで、JAXAの協力により宇宙に関する学習機会を与えられたりと、宇宙に一番近い中学校といえます。



植付け前の学校農園の準備

として整備されているなど、歴史と未来が融合する地といえます。

平成27年度の生徒数は162人、P戸数は139戸、町内8小学校から生徒が通ってきています。

地域とともに

開校当時から継続しているPTA活動に、「地域巡回・家庭教育学級」があります。地域と学校のつながりが希薄にならないように、PTA三役と教職員が8小学校区を訪れ、教育活動の説明や協議を行い、親睦を深めています。各地域公民館などを会場とする本活動には、父親の参加率が極めて高く、年度当初で保護者と学校、役員の連携を強める活動となっています。

子どもたちに体験を

1、2年生は、種子島の基幹作物である甘藷の栽培を約三反の学校農園で行っています。この農業体験には、特に父親会員の協力が不可欠です。6月の植付け前に、休んでいた農園を掘り起こし、肥料を混ぜ、畝を立てます。大型の農業機械がフル稼働です。また、カラと呼ばれる芋の苗約8千本も会員の厚意で持ち寄られます。特に昨年は植付け時に荒天が続

き、苗を枯らさぬように校内のホールに広げて、1週間管理をしました。植え方の指導も父親会員が丁寧に行い、延期された植付けも無事に行うことができました。また、除草も子どもたちだけでは足りず、施設事業部員も数回協力し、ようやく11月の収穫を迎えました。収穫前の準備も父親会員が農業機械を持ち寄り、子どもたちが収穫しやすいように耕します。

長雨等の影響で例年より若干少なめの収穫量でしたが、子どもたちとともに半年間に及ぶ大きな活動を成し遂げた達成感があり、大いに祝杯を上げました。収穫した甘藷は、町内の酒造会社を買ってもらい、南種子中学校特製のラベルが貼られた本格焼酎「南宙」となります。甘藷の売り上げはPTA会計として、子どもたちの各種大会参加等の助成に使われます。

環境を整える

広大な敷地の環境整備は会員の協力が不可欠です。年3回の奉仕作業では、刈払機や軽トラックを持ち寄り、学習環境を子どもたちとともに整えています。

あとがき

今回、父親の活躍に焦点を当てた内容となりましたが、本校の母親会員もさらに元気です。

これからも父親会員と母親会員がフォローし合いながら、子どもたちの明るい未来のために、PTA活動を楽しみながら、頑張っていこうと思います。



父親会員から教わりながら甘藷の植付け